

東京すくわくプログラム活動報告書 ① テーマ:設定遊び

<テーマの設定理由>

室内で思い切り体を動かして遊び、気持ちを発散させる。手足・体をしっかり使って育つことでイメージも広がり、色々な遊びにつながっていく。2歳から3歳クラスになり、広いホールを走ったり、リズム遊びをしたりと、体を動かして遊んできたが、走るだけではなく、梯子を登ったり、くぐったり、高い所からジャンプする等、色々な体の動きを経験する。身体を使って遊ぶ中で、自分の中で、また友達とのワクワクを引き出していく。

園名：社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園
活動日時：令和7年7月15日
午前中
クラス名：こじか組（3歳児クラス）
年間テーマ：設定遊び

<活動スケジュール>

1年を通して設定遊びを継続的に取り組んでいる。
この日は午前中3歳クラスのための空間・時間で道具を使いながら設定遊びを行う。

<活動のために準備した素材や道具>

梯子・体技台・平均台・ロールマット・マット
肋木・肋木板・大縄・布団棚・

<環境をデザインする・探求活動の実践>

【ねらい】

どこからでも、自分の好きなように自由に上り下り出来るように設定する。梯子は布団棚にかけ、傾斜をつけることで前を向いて登ること、手元を見ながら登る経験をしていく。斜面を登ることで足指の発達を促す。

ホールに来ると、視界が広がり、色々な場所を見た後、梯子から登る子、肋木から登る子等、自分の好きな所から登って遊ぶ姿がある。スムーズに登ることが出来る子、時間をかけて慎重に登る子等、子どもによって様々だった。



一本橋は両方に足を乗せて歩く子がいて、その姿を見て後ろの子も真似をしていた。梯子は始めは高さがあるため、手元を見てゆっくりと登る子が多かったが、慣れてくると、顔を上げ、前を見ながら登る子が増えてきた。20 cmから20 cmの梯子では、高這いで進んだり、足をしっかりと上げて歩いたり、それぞれが好きな方法で進んでいた。

急な斜面を登る時は視線が前を向き、素早く登る姿があり、緩やかな斜面では、ゆっくりと登る姿があった。高さや角度によって、自然と登り方、体の使い方を変えていた。ロールマットの滑り台は前日に運動遊びで転がる動きを行ったため、上から転がることを楽しむ子がいた。下にもマットを敷き、危険のないようにした。



<振り返り>

- ・それぞれが楽しみに、どこからやってみようかを考えて、挑戦する姿が見られた。
- ・広いホールでの設定遊びは、視界が広がることで気持ちが高まったり、設定の周りを走り回る子もいるが、色々な所から登ったり降りたりできるように組んでいくことで、自分の好きな所を選んで遊ぶことができるため、3歳児には適していると感じる。
- ・梯子を平行にするのと、傾斜をつけるのでは、子どもの動きに違いが出てくる。平行にすると出てくる子どもの姿（足をしっかりと上げて跨ぐこと）、傾斜にすると出てくる子どもの姿（顔を上げて進むこと）等、何を目的とするか、子どもたちにどんな動きを経験させたいかによって設定を変えていくことが大切だと感じる。
- ・ロールマットを2つ並べて、その上にマットをかけて滑り台のようにした。前日の経験、滑りが悪かったこともあり、横向きになり転がり落ちることを楽しむ子が多かった。子どもの動きを予測しながら、遊びを展開していく。